

救急医療中止の病院も

欠勤続出あえぐ現場

新型コロナウイルス

感染拡大の波は医療従事者も巻き込み、相次ぐ就業制限で逼迫(ひっぱく)の度合いが増しています。救急患者の受け入れを全面中止する病院も出ており、現場からは「状況は刻々と悪化している」「精神的にも限界がありだ」と悲鳴が上がりま

す。

総務省消防庁によると、救急搬送先がすぐ決まらない「搬送困難事案」は1月24日30日の1週間で過去最多の5303件となりました。この受け入れを全面中止する病院も出ており、現場からは「状況は刻々と悪化している」「精神的にも限界がありだ」と悲鳴が上がりま

す。病床拡充のため一般病床を100床減らすなど、瀬戸際の医療を続けます。救急患者は以前なら1日当たり20件程度を受け入れていましたが、今月2日時

「第5波」ヒーク時の1・6倍に上りました。東京都大田区の大森赤十字病院では、コロナ診断とセーフティ

「ネットの役割を両立するのは難しい」と話していました。

3日には、ついに救急の全面中止に追い込まれました。同院長は

「今朝、感染や濃厚接触、子の世話をなどで新規入院と手術を中止しませんでした。医師や看護師、入院患者の計32人が感染したほか、濃厚接觸によるスタッフの

発熱のある「コロナ疑い患者の受け入れができるなかつた」と明かしました。医師や看護師、入院患者の計32人が感染したほか、濃厚接觸によるスタッフの欠勤も相次ぎ、緊急性制限となり、現場が回らなくなつた。状況は刻々と変わり、また一歩悪くなつた。悔しい

が、救急をいったん止め立て直さなければ

肉体的にもきりきりだ」と疲労感を感じました。

兵庫県西宮市の兵庫医科大学病院は1月末、全病棟で急患以外の新規入院と手術を中止しました。医師や看護師、入院患者の計32人が感染したほか、濃厚接觸によるスタッフの

欠勤も相次ぎ、緊急性

の低い入院を一部で制限しました。院内クラスター(感染者集団)

「全病棟での入院中止を防ぐため勤務外でも

提供体制の維持は厳し

めで立て直さなければ

神経をとがらせてお

り、「緊張感がいつも

さを増している」と語

りました。

大阪市にある北野病院の丸毛聴呼吸器内科・感染症科部長は「先

週末に病床が埋まり、

発熱のある「コロナ疑い

患者の受け入れができるなかつた」と明かしました。医師や看護師、入院患者の計32人が感染したほか、濃厚接觸によるスタッフの

欠勤も相次ぎ、緊急性

の低い入院を一部で制限しました。院内クラスター(感染者集団)

「全病棟での入院中止を防ぐため勤務外でも

提供体制の維持は厳し

めで立て直さなければ

神経をとがらせてお

り、「緊張感がいつも

さを増している」と語

りました。